

「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」を題材にした

水族館における教育普及活動

○鈴木良博・杉村誠・櫻井徹・小谷野有加・北嶋円（新江ノ島水族館），
田代省三・田村貴正・吉澤理・荻田善之・小川麻由子・関野富貴・吉田美智子・武内境子
・足立由美子・矢田紀子・監物うい子（海洋研究開発機構）

新江ノ島水族館では、2004年から2017年現在まで複数回にわたり、国立研究開発法人海洋研究開発機構（以降、JAMSTEC）が主催する「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」の入賞者体験乗船に同乗し、参加者への生物解説や水槽の設置および生体サンプルの管理など、プログラム運営の補助を担ってきた。本事業は、JAMSTECが未来を担う子どもたちの海洋に対する興味喚起などを目的とし、全国の小学生を対象に1999年より毎年実施しているもので、コンテスト上位入賞者には特典としてJAMSTECの所有する船舶で深海などの調査を体験できる「体験乗船」に親子で招待している。

体験乗船では“リアル”な海や深海の世界に直接触れ、調査航海の意義や魅力、そこで働く船員や運航チームの迫力などを最前線の研究者に近い位置から感じ取ることができる。また、体験乗船に参加できなくとも、本コンテストに参加することで、楽しみながら「海洋」と向き合い、その結果多くの事を学ぶことができると考える。本事業をより多くの方々に伝えることは水族館においても大変意義があり、これらを題材にすることで、より効果的に海や深海の魅力を伝えることが出来ると考える。

本発表では、2017年に参加した第19回「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」入賞者体験乗船（駿河湾、深海調査）で得られたデータや試料を用い、以下の3つの手法で実施した当館の活動について紹介する。

- ①深海コーナー展示ゾーンの一部に、「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」の特別コーナーを設け、体験乗船の成果を中心として、コンテストの概要や入賞作品、乗船の様子、採取された生物の紹介、次回コンテストの告知や参加方法などをまとめた。
- ②体験乗船を主題にし、航海の様子などを紹介した解説パネルと共に、採取された生物（ハゲナマコ属の一種）を研究公開した。
- ③乗船の様子や実施プログラムなどを日誌として作成し、新江ノ島水族館ホームページ内（航海・採集日誌）にて掲載した。

新江ノ島水族館は2003年よりJAMSTECとの間に共同研究に関する契約（深海生物の長期飼育法に関する研究開発）を締結し、これまで多くの調査航海に参加し、得られた経験や成果を、様々な手法で広く一般に伝えてきたが、上記①のように「体験乗船」に焦点を当てたコーナーを設けるのは初の試みである。②のハゲナマコ属の一種は刺激を受けると発光することが確認され、その動画も併せて公開し、大変注目を集めている。③の航海日誌では閲覧者になるべく現場をイメージし易いよう細かく時系列毎に内容を追った。これらの活動により、来館者をはじめ多くの方々に本事業や深海の魅力について伝えられたと考える。